

船舶事故調査報告書

平成28年1月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年8月15日 07時10分ごろ
発生場所	香川県高松市小槌島 ^{こづち} 北西方沖 小槌島灯台から真方位273° 450m付近 (概位 北緯34° 23.8′ 東経133° 55.1′)
事故の概要	プレジャーボート第2林丸 ^{はやし} は、漂流中、また、プレジャーボート栄幸丸 ^{えいこう} は、北東進中、両船が衝突した。 第2林丸は、オーニングの支柱に曲損等を、また、栄幸丸は、船首部に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	平成27年8月21日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 第2林丸、5トン未満（長さ7.61m） 271-26006岡山、個人所有 B プレジャーボート 栄幸丸、5トン未満（長さ5.54m） 271-14961岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部にあるオーニングの支柱に曲損等 B 船首部に擦過傷
気象・海象	気象 天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象 波高 約0.5m、潮流 西流約2ノット
事故の経過	船長Aは、A船を漂流状態とし、操縦席の右舷後方に座り、右舷方を向いた姿勢で釣りの準備をしていた。 船長Bは、操縦席で舵棒を握り、B船の右舷方を南進する友人のプレジャーボートの動向を気にして、同船を見ながら航行していた。
分析	A船は、船長Aが、釣りの準備をしていて見張りを行っていなかったことから、接近するB船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、B船の右舷方を南進する友人のプレジャーボートを見ていて見張りを適切に行っていなかったことから、漂流中のA船に気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、A船の船長Aが見張りを行っておらず、また、B船の船長Bが見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 常時適切な見張りを行うこと。
--	--